富山赤十字病院

第116号

地域医療連携だより

えん

発行日：令和５年２月　発行所：富山赤十字病院　富山市牛島本町２丁目１番58　TEL. 433−2492　発行責任者：高田 裕之

不妊治療について

第２産婦人科部長　髙橋　　裕

妊娠を希望するカップルに対しては外来で基本的な検査をおこなった後に治療を開始します。治療は排卵の時期をみるタイミング法に始まり、その後人工授精、体外受精（顕微授精）へと進めていきます。しかし両側卵管閉塞や重症の子宮内膜症がある場合、男性の精子数や運動性の低下が著しい場合、女性の年齢が高い場合などはすぐに体外受精（顕微授精）に進むこともあります。

基本的な検査やタイミング法までの治療は、今までも保険診療としておこなわれてきました。しかし人工授精や体外受精（顕微授精）などの治療は自費診療となるため、費用の負担が課題の一つとされてきました。

令和４年４月から人工授精や体外受精（顕微授精）が保険適応となり、経済的な負担は以前より軽減されつつあります。当科でも人工授精や体外受精を希望される患者さんを開業医の先生方からご紹介いただく機会が増えています。不妊治療では男女双方の検査が必要ですが、特に女性は検査や治療のため月経周期に合わせて月に複数回受診する必要があり、仕事の予定を急に変更しなければならないこともあります。また治療の先行きが見通しにくいことは精神的なストレスの原因となります。その結果、仕事と治療の両立が難しくなり、休職や退職を余儀なくされる方も少なくないのが現状です。当科では夕方や土曜日の受診が可能な開業医の先生と情報共有し、患者さんに寄り添いながら治療をすすめていきたいと考えております。

2015年の国内調査では夫婦の18.2%（5.5組に１組）が妊娠のための検査や治療をうけているとされ、今後もその増加が予想されます。

自分の身近にも妊娠を希望しているカップルが存在し、その中には職場の上司や同僚に相談したいと思いつつ躊躇している方がおられるかもしれません。不妊治療の保険適応拡大を機会に、私たちの社会でも治療をうける方々の立場を理解し協力していく環境が育まれることを期待しています。

第81回地域医療連携の会

令和５年１月16日(月)午後７時より、富山赤十字病院教育研修棟３階講堂において「第81回地域医療連携の会」が開催されました。開業医の先生18名、当院医師、看護師、コメディカルを含め総勢53名の参加がありました。

内分泌内科　横山茉貴医師より「もしも甲状腺ホルモン異常を発見したら～バセドウ病を中心に～」、高令心療科(精神科)部長　殿谷康博医師より、「初診から１年半後にレビー小体型認知症へ診断変更したうつ病の症例～診断の遅れによる本人・家族の不利益について気付かされた一例～」の演題で発表があり、質疑応答や意見交換が行われました。

もしも甲状腺ホルモン異常を発見したら ～バセドウ病を中心に～

糖尿病・内分泌・栄養内科部医師　横山　茉貴

バセドウ病は1000人に３人程度、橋本病は10-40人に１人程度と報告され、甲状腺ホルモン異常の代表疾患です。混同されやすい概念として甲状腺中毒症と甲状腺機能亢進症があり、前者は血中の甲状腺ホルモンの働きが過剰になっている状態で、血液検査でFT3、FT4が高値を示します。後者は甲状腺ホルモンが過剰に産生されている状態を指します。甲状腺中毒症の原因として甲状腺機能亢進症(バセドウ病など)のほか、甲状腺が破壊されホルモンが漏れ出てくる破壊性甲状腺炎(無痛性甲状腺炎、亜急性甲状腺炎など)があります。鑑別には、症状の経過や炎症所見、TSH受容体抗体(TRAb)等の自己抗体、放射性ヨード摂取率が重要です。TRAb陽性の甲状腺中毒症はバセドウ病の診断となり、治療として日本では多くの場合薬物療法を行いますが、治療困難であればI-131内用療法や手術を検討します。

初診から１年半後にレビー小体型認知症へ 診断変更したうつ病の症例

高令心療科（精神科）部長　殿谷　康博

レビー小体型認知症（DLB）は認知症の約20%を占めており、高齢者ではアルツハイマー型認知症に次いで多くみられる認知症性疾患です。DLBの中核症状は、1）認知機能の変動、2）幻視、3）パーキンソン症状、4）レム睡眠行動異常（睡眠中の激しい寝言や体動）ですが、中核症状に気付かれず、アルツハイマー型認知症と診断されている場合も少なくありません。さらに、記憶障害があまり目立たず、うつ病や不安障害、精神病などの精神疾患とみなされていたり、DLBによって生じる便秘、頻尿、多汗、立ちくらみなどの自律神経症状を不定愁訴とみなされている場合も少なくありません。

ダットスキャンやMIBG心筋シンチグラフィなどにより、DLBの診断が可能となる場合がありますので、認知機能の衰えがみられるとともに、様々な不定愁訴や精神症状もみられる患者さんがおられましたら、是非、ご紹介のほどお願い致します。

産婦人科外来紹介

産婦人科外来　看護主任　酒井　美穂

当院は富山県周産期医療連携体制における周産期母子医療センター連携病院として、一次・三次医療機関と連携し、ハイリスク妊婦を受け入れています。合併症妊娠では、他の診療科と協力して診療を行っています。

また、UNICEF/WHOより「赤ちゃんにやさしい病院：BFH」として認定されており、母乳育児支援を通して「赤ちゃん・お母さんにやさしい」産科診療を展開しています。助産外来では、個別のバースプラン等の相談にのり、ご希望に添った出産ができるよう経験を積んだ助産師がお手伝いしています。分娩後は、早期に母子接触をはかり、母子同室での母乳育児を通して、早期に母子関係が確立できるように援助しています。退院後も２週間健診、母乳外来等で継続的に母乳育児支援をします。

婦人科では、小児・思春期から中高年までと対象の年齢層が幅広いため個々の患者さんに寄り添ったケアを心がけています。また、不妊治療では患者さんの思いを尊重し、それぞれの生活スタイルに合わせて治療ができるように支援しています。

前列左から：第２産婦人科部長 髙橋医師、第１産婦人科部長 桑間医師、酒井看護主任
後列左から：椎名看護師、産婦人科 川上医師、第４産婦人科部長 岡田医師、第３産婦人科部長 藤間医師

研修医の地域医療研修について　研修センター

第１整形外科部長兼研修センター長　中村　宏

令和４年度から前任の黒川先生から引き継いで研修センター長を務めています。宜しくお願い申し上げます。研修センターでは職員全体の研修を担当していますが、初期研修の管理運営も行っています。初期研修２年目に地域医療研修が必須項目となっているため、不二越病院、富山西総合病院、富山市まちなか診療所、前川クリニックにお世話になっています。地域医療研修に当たっては、当院で学べない貴重な経験をさせていただいており、深く御礼申し上げます。おかげさまで、令和５年度から初期研修医の定員が１名増えて７名となりました。今後も引き続きお手数をおかけしますが宜しくお願い申し上げます。

臨床研修医

魚谷　拓未

不二越病院での地域医療研修を通して、心不全や肺炎、腎不全による透析患者に対する治療や自宅退院・療養型病床や施設への転院に向けての一連の流れを学ぶことが出来ました。今までの研修では急性期疾患の治療を経験する機会が多かったものの、リハビリや栄養によるADLの維持・拡大を図り、転院・退院後の環境調整がメインとなる病棟業務に今回携わらさせていただき、病院によってもそれぞれ役割が異なること、慢性期の病態を多く診療する地域に根ざした病院の重要性を実感しました。ご指導くださった先生方や職員の皆様に対して、この場をお借りして感謝申し上げます。

木村　亜里紗

不二越病院で１ヶ月間研修をさせていただきました。これまで研修の基幹病院が急性期病院であり転院を受け入れていただく立場がほとんどであったため、今回の研修で患者さんのニーズや社会的背景に応じた転機を決定する上での訪問診療や福祉サービスの調整などの一連の流れに関わることができ、大変実践的で役立つ経験となりました。医師としてまだ駆け出しではありますが、患者さんの生活環境に配慮した視点を持ち地域の方々に寄り添った医療を提供していけるよう精進していきたいと思います。ご指導くださった先生方やコメディカルの皆様にこの場をお借りして感謝申し上げます。

古川　大祐

まちなか診療所で地域医療研修をさせていただきました。終末期から慢性期疾患まで幅広い在宅診療を経験させていただきました。特に悪性腫瘍の終末期では、本人や家族と話をして本人の希望を叶えるべく他施設、他職種で連携してサポートを行っており、地域医療の真髄を経験できたと思います。病院で勤めるにあたり、自宅で過ごすためにはどんな支援が必要なのか、家族はどのくらい介護できるのか、生活環境はどうかなど、また違った視点で診療ができるようになったと思います。お忙しい中、貴重な研修をさせていただいたまちなか診療所の職員の方々、そして患者さん、ご家族の皆様にこの場をお借りして感謝申し上げます。

村井　佳那

訪問診療とはいったいどのようなものなのかという単純な興味から始まったまちなか診療所での研修。実際の訪問診療の現場では患者さんの疾病だけでなく、患者さんとその家族の生活や想い、かかえる社会的な課題に真剣に向き合う先生方やスタッフの皆様の姿を目の当たりにしました。特に終末期の患者さんが家族に囲まれて、住み慣れた家でその生涯を終えるその瞬間が今も鮮明に記憶に残っております。訪問診療の魅了、その重要性を強く感じるエピソードでありました。短い期間ではありましたが、懇切丁寧にご指導くださったまちなか診療所の皆様に心よりお礼申し上げます。

～地域包括ケア学習会開催～

患者支援センター　駒見　恵子

地域包括ケア学習会は、柳町・清水町地域包括支援センターと愛宕・安野屋地域包括支援センター、富山赤十字病院患者支援センターが合同で企画しています。医療の継続が必要な場合でも在宅で安心した生活を送ることができるよう、介護保険事業所や施設、病院などの相談員が連携を深めることを目的に毎年開催しています。

学習会では、「認知症高齢者の意思決定支援」について事例を通して振り返り、意思決定支援や地域や病院でできる支援について話し合いました。また、それぞれの体験や、その時々の患者さんやご家族と関わる中での思いなどを語ることでリフレッシュできたように感じています。今回は、認知症看護認定看護師より「認知症の人への意思決定支援」の講義を聴き、気持ちや考えは常に揺れ変化するものであり、随時、話し合う、確認するプロセスを踏むことが重要であることを再認識しました。多職種で連携しながら「その人らしく生活する・生きる」ことを支えることを大切にし、今後も研修会を継続し連携を深めていきたいと思います。

愛宕・安野屋地域包括支援センターについて紹介します

愛宕・安野屋地域包括支援センター　主任介護支援専門員　黒田　雅美

愛宕・安野屋地域包括支援センターは赤十字病院内の５階にあり、並びに赤十字訪問看護ステーションや赤十字ケアプラン事業所があります。構成は社会福祉士・保健師等・主任介護支援専門員の３職種のメンバーになります。地域包括支援センターは、高齢者の総合相談・権利擁護・地域の体制づくり・介護予防をすることにより保険医療の向上及び福祉の増進を包括的に支援する事を目的とし、地域包括ケア実現に向けた中核的な役割として市町村から委託を受けた施設です。

高齢化に伴い、独居世帯や高齢者世帯が増え、対応が難しい高齢患者様も多くなっていると思います。地域の先生方には主治医意見書等の依頼でお世話になっておりますが、地域包括支援センターは介護保険の申請の窓口や認知症への対応の強化のため認知症サポーター養成講座なども行っています。愛宕・安野屋地域でお困りの高齢者の方がいらっしゃいましたら、お気軽にご連絡ください。またコロナウイルスによる影響が長引く中、地域には閉じこもりがちな高齢者が増えています。地域包括支援センターでは地域住民と協力し、高齢者の通いの場の立ち上げを支援しています。通院患者様で気になる方がいらっしゃいましたら、相談窓口としてご紹介頂けると幸いです。どうぞよろしくお願いします。

3月、4月の外来診療に関する医師不在日案内

3月

科名	医師名	不在日
眼科	武島　知志	3日(金)　6日(月)　13日(月)　20日(月)
	長野　　愛	8日(水)　10日(金)　24日(金)
歯科口腔外科	石戸　克尚	13日(月)
	朝倉みな実	20日(月)　22日(水)　23日(木)　24日(金)
脳神経外科	桑山　直也	17日(金)
小児科	津幡　眞一	30日(木)
呼吸器外科	宮津　克幸	7日(火)
整形外科	清水　一夫	20日(月)AM
耳鼻いんこう科	赤萩　勝一	31日(金)
内科	平岩　善雄	15日(水)
	黒川　敏郎	20日(月)　23日(木)
	川原　順子	24日(金)
	岡田　幾磨	31日(金)
	東　　雅也	13日(月)　17日(金)PM　31日(金)
	貫井　友貴	30日(木)
	中川俊一郎	31日(金)
	稲端　翔太	31日(金)
	福尾　篤子	27日(月)AM
泌尿器科	福川孝太郎	14日(火)　30日(木)　31日(金)

4月

科名	医師名	不在日
小児科	津幡　眞一	14日(金)
耳鼻いんこう科	赤萩　勝一	20日(木)
内科	川根　隆志	17日(月)
	品川　和子	7日(金)AM

※不在日には、代診を立てております。

患者支援センターからのお知らせ

令和５年度「地域医療連携の会」

令和５年５月に次回開催を予定しております。

※詳細は後日お知らせいたします。

今年度も４回の開催を計画しております。みなさまの参加をお待ちしております。

新任医師紹介

耳鼻咽喉科

医師　山田　貴裕　　どうぞよろしくお願いします。

編集後記

先日、小学５年生の息子の所属する野球チームの卒団式が行われました。１年生から野球を始めた息子にとって６年生は、野球を一から教えてもらった先輩であり、たくさんの試合を一緒に戦ってきた仲間であり、小学校の誰よりも仲良くしていた友達でした。そんな６年生の卒団式とあって、息子は終始大泣きでした。親としては、スポーツよりもっと勉強を頑張ってほしいのですが、このような姿を見るとやっぱり野球をやらせていてよかったなと思います。本来であれば、卒団式の後に納会が行われるのですが、残念ながらコロナの影響で中止となりました。早くコロナが終息し、マスクを外して笑い合える日がくるのを祈るばかりです。

（医事サービス課　病床管理係長　池畑　庸子）

紹介依頼など、下記までお問い合わせください。

富山赤十字病院
患者支援センター

TEL：076-433-2492　FAX：076-433-2493
e-mail：byousinrenkei@toyama-med.jrc.or.jp
夜間・休日のお問い合わせは…TEL：076-433-2222(代表)
Fax：076-433-2410(夜間・休日のみ)